

屏東商業技術学院での日本語教育実習を終えて

麗澤大学大学院 修士2年

小野寺樹璃

私は、2月19日から3月18日までの約1ヶ月間、屏東商業技術学院で日本語教育実習をさせて頂きました。台湾に行くのは初めてな上、中国語ができない私は、1ヶ月間の実習をしっかりこなせるか不安でした。しかし、応用日本語学科の学生はそんな不安をすぐに打ち消してくれました。最初の時間が自己紹介だったということもあって、休み時間には、趣味や好きなもののお話で盛り上がりました。また、週末には高雄や台南などに連れて行ってくれ、台湾の良いところを沢山教えてくれました。

私が、応用日本語学科の学生の良いと思ったところは、私たちが担当した授業が会話だったということもあると思いますが、授業で教えた文型をすぐに使おうとし、使えていた学生が多かったということです。これは、実際に授業を行った身としては、教えた文型を使うところを見ることができるのは、「わかってもらえたんだな。」と実感できるので、とても嬉しいです。また、目標を持って努力している学生が多いという印象も受けました。教壇実習をしている時、学生たちがとても授業に積極的で、真剣に話を聞き、一生懸命声を出していたところを見て、嬉しかったことを覚えています。目標があるからこそ、授業も真剣で、その学んだことをすぐに使おうとするから、どんどん上達していくという、良い循環が生まれているのだと感じました。そして、私が実習生という、先生であり、学生という立場だったということもありますが、他の先生方を見ていると、先生と学生との距離が近く、私の通っている大学院と似ているなと思いました。

私は、この台湾の教育実習の他に、大学生の時に、日本国内で日本語を教えている高校と韓国の教育実習に参加したのですが、他の実習先と比べて、この屏東商業技術学院での教育実習は、1~4年生までの色々な授業を沢山見学できたり、学生のことについて先生と話す時間があつたりと、1ヶ月間、日本語教育について、一生懸命考え、しっかりと向き合うことができました。2年生の会話の授業は、1課ごとに発表の時間があり、その課の内容を身につけるのにとっても良いなと思いました。また、BBSを授業に用いていたところも私としては斬新で、このような使い方があるのだと、新しい発見ができました。

居住は、寮だったのですが、寮で学生たちと一緒に生活することで、先生としての立場だけではなく、友達としての立場になることができたことも良かったと思っています。

始まる前までは、「長いな」と思っていた1ヶ月ですが、台湾は食べ物も美味しく、人も優しく、何より、お世話になった屏東商業技術学院の先生方や学生たちが本当に良い人たちばかりで、あっという間の1ヶ月でした。時間は、あっという間でしたが、出来た思い出や得た経験は、大きなものであり、私のかげがえのない宝物になったと自負しています。この実習に参加できて、屏東商業技術学院の皆さんに会うことができ、本当に良かったです。貴重な経験と素敵な時間をありがとうございました。